

2022 年度 日本小児耳鼻咽喉科学会 理事会議事録

日時:2022 年 7 月 20 日(水) 15 時 00 分~16 時 40 分

場所:富山国際会議場 2 階 会議室 201+202

出席者:伊藤真人(理事長)、足立雄一、香取幸夫、小林一女、齋藤康一郎、阪本浩一、竹内万彦、田中 学、田中康広、土井勝美、中川尚志、仲野敦子、二藤隆春、原浩貴、兵頭政光、増田佐和子、三輪高喜、守本倫子、吉川 衛、吉原重美(理事)、後藤友佳子、望月博之(監事)、飯野ゆき子、市村恵一(顧問)、有本友季子、香山智佳子、小森 学、橋本亜矢子(幹事)、將積日出夫(副会長)、加藤泰輔(年次幹事)、深美 悟、益田 慎(アドバイザー)、原真理子(第 18 回総会・学術講演会年次幹事)、土橋奈々(APOG2023 年次幹事)、早坂駿吾(事務局)

伊藤真人理事長挨拶

本理事会は出席者と委任状で定足数を満たしていることが報告された。議事録署名人には三輪理事と田中[学]理事が指名された。本理事会開催にあたっての挨拶として理事会出席者および足立雄一会長への謝辞が述べられた。

足立雄一会長挨拶

第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

將積日出夫副会長挨拶

第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を開催するにあたっての協力・支援に対する謝意が述べられた。

I. 報告事項

1. 庶務報告(守本理事)

1-1. 2021 年度事業報告

1. 第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2021 年 7 月 8 日~9 日の 2 日間、大阪市において近畿大学 耳鼻咽喉科 土井勝美会長のもとに現地+オンデマンドのハイブリッド方式にて開催した。
2. 第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2022 年に富山大学小児科 足立雄一会長のもと開催に向け準備をした。
3. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 42 巻 1 号、2 号、3 号を刊行した。
4. 理事会を 2021 年 7 月 7 日に開催した。
5. 評議員会を 2021 年 7 月 7 日に開催した。
6. その他学会活動を行った。
7. 日本小児耳鼻咽喉科学会 会員数:2022 年 3 月 31 日現在

正会員	1,206 名
名誉会員	3 名
購読会員	13 名
寄贈会員	3 名
<hr/>	
合計	1,225 名 (前年度 1,263 名)

(入会者 131 名(臨時会員含む)、退会者 63 名(物故者 2 名含む))

1-2. 2019 年度会費～2022 年度会費未納者の自然退会について

2019 年度会費～2022 年度会費未納者について、会則第 9 条第 2 項に基づき、自然退会とすることが報告された。

2. 会計(土井理事)

特に報告事項なし。

3. 学術誌編集(二藤理事)

特に報告事項なし。

4. ホームページ広報(田中[学]理事)

特に報告事項なし。

5. 会員教育(香取理事)

本委員会が新たに設置され、第 1 回委員会で今後の活動に関して意見交換会を開催し、「疾病に対する考え方、治療法に関する調査を実施し、それを介して教育課題を掘り起こすこと」「会員の教育に加えて、社会に発信して治療を啓発する教材を学会 HP 等に掲載すること」「症例をあげて両領域の複数の回答者が意見交換する参加型セッションの企画を行うこと」など、具現性のあることから進めていく方針であることが報告された。

6. 保険医療(三輪理事、吉原理事)

特に報告事項なし。

7. 会則改定(兵頭理事)

特に報告事項なし。

8. 学術(国際)(中川理事)

本学会に関わる国際学会の開催予定について、報告された。具体的には、1)2022 年 8 月 5 日～6 日にベトナムのホーチミン(Ho Chi Minh City, Vietnam)にて「the 8th APOG2022 Congress」が開催されること、2)2023 年 5 月 20 日～23 日にイギリスのリバプール(Liverpool, England)にて「ESPO2023」が開催されること、3)2023 年 11 月 9 日～10 日に大分県別府市にて「the 9th APOG2023 Congress」が開催されること、4)

ASPO については、2022 年は 4 月に開催されたが、2023 年は不明であること、がそれぞれ報告された。

9. 学術(国内)(小林理事)

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会より依頼のあった第 124 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会、および、第 37 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会専門医講習会の企画への協力をお願いについて、プログラム案を提案したことが報告された。

10. 将来計画(齋藤理事)

特に報告事項なし。

11. ダイバーシティー推進(D&I)(吉川理事)

第 122 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会の会期中に開催された、「耳鼻咽喉科男女共同キャリア支援懇談会」に伊藤理事長と出席したこと、第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会期中に、特別企画 2「ダイバーシティー推進シンポジウム:多職種の相互理解と意識改革」を開催することが、それぞれ報告された。

12. 小児科領域企画推進事業(足立理事)

第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会期中に、シンポジウム 3「日本小児呼吸器学会との合同シンポジウム:小児 OSA 診療の現状と課題」を開催することが報告された。

13. 専門医制度 WG(田中[康]理事)

委員会内で討議を行ったことが報告された。討議の内容は、1)耳鼻咽喉科そのもので小児を診ているため、小児耳鼻咽喉科の全体的な専門医とすることは難しいこと、2)その上で、小児難聴と小児気道管理の専門医や相談医が必要ではないかということ、3)小児難聴については、日本耳科学会や日本聴覚医学会との連携も必要になってくるため、もう少し検討していきたい旨が報告された。

なお、小児気道管理については、その専門医に対してどれぐらいのニーズがあるのかを見極めたいとのことであった。

14. その他

14-1. メール審議報告・情報配信報告(伊藤理事長)

前回理事会(2021 年 7 月 7 日開催)以降のメール審議の内容および情報配信の内容が報告された。

14-2. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・関連する学会会議出席報告(伊藤理事長)

この会議では、年 2 回、本学会を含めた、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・関連する学会の理事長等の代表者が集まり、全体的な調整を行っていることが報告され

た。また、コロナ禍を経ての学術講演会の開催方法について議論が行われていることも併せて報告された。

14-3. オマリズマブの重症花粉症への適応に関する最適使用推進ガイドラインの改定への協力要請について(阪本理事)

オマリズマブ(ゾレア)は非常に高価なため最適使用推進ガイドラインが出ているが、その制限が厳しいため、その緩和のために本学会から定義をしていただけないかという要請が製薬会社からあったため、その討議を保険医療委員会内で行うことにつき、本理事会で確認を取りたい旨の申し出があり、了承された。

14-4. 第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会計報告(土井前会長)

第 16 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(2021 年 7 月 8 日~9 日開催)の決算が報告された。

14-5. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(守本次期会長)

第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況が報告された。

14-6. APOG2023 準備状況報告(中川 APOG2023 会長)

APOG2023(the 9th APOG2023 Congress)における、現在の準備状況が報告された。

14-7. 第 19 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会準備状況報告(竹内次々期会長)

第 19 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会における、現在の準備状況が報告された。その中で、2024 年 7 月 11 日~12 日にシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢(伊勢市観光文化会館)で開催されることが案内された。

II. 審議事項

1. 2021 年度決算報告(土井理事)

2021 年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算(2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)および資産が報告され、承認された。

なお、故・鈴鹿有子先生より受領した寄付金(合計 2,000 万円)につき、特定資産に移すことにつき審議され、承認された。

2. 会計監査報告(望月監事)

2021 年度日本小児耳鼻咽喉科学会決算を監査した結果、適正であることが報告され、承認された。

3. 2022 年度事業計画(案)(守本理事)

1. 第 17 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2022 年 7 月 21 日～22 日の 2 日間、富山県において富山大学小児科 足立雄一会長のもとに開催する。
 2. 第 18 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を 2023 年に国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科 守本倫子会長のもと開催に向け準備する。
 3. APOG2023 の開催に向け、後援する。
 4. 日本小児耳鼻咽喉科学会誌 第 43 巻 1 号、2 号、3 号を刊行する。
 5. その他学会活動を行う。
- 以上、審議され、承認された。

4. 2022 年度予算(案)(土井理事)

2022 年度日本小児耳鼻咽喉科学会予算(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)について審議され、承認された。

5. 新評議員および次期年次幹事の推薦(仲野理事)

笠井正志先生(兵庫県立こども病院感染症科)、杉本寿史先生(金沢大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科)、宮入烈先生(浜松医科大学小児科)、村上和子先生(福岡市立こども病院耳鼻いんこう科)が評議員として推薦され、承認された。なお、村上和子先生の推薦は、柴田修明先生の評議員辞退届ご提出に伴う推薦であることが案内された。

また、年次幹事に原真理子先生(国立成育医療研究センター耳鼻咽喉科)が推薦され、承認された。

6. 学会誌の電子化(ペーパーレス化)の件(二藤理事)

学会誌を電子化(ペーパーレス化)した場合の中西印刷(株)における見積もりが提示された。具体的には、1)現状の紙媒体での年間の発行および発送費用を合算すると約 400 万円になることに対し、電子化すると、「書誌情報を HTML+本文を PDF」とした場合は約 290 万円、「全文を HTML」とした場合は約 320 万円となる、2)電子化に伴う立ち上げ費用が約 10 万円である、という見積内容が提示されたことを説明された。

また、電子化することにあたってのメリットおよびデメリットについても報告された。メリットとしては、1)印刷・製作費、発送費などの支出を削減できること、2)印刷物を保管したり廃棄したりする必要がなくなること、3)論文の公開が早くなること、4)フルカラーで公開できること、5)論文は圧倒的に WEB 検索で探されること、6)WEB にならぬ論文は発見されず、読まれず、引用されないこと、がそれぞれ挙げられ、他方、デメリットとして、1)定期的な出版物が届かないことで、会員メリットの 1 つがなくなること、2)学会と会員とのつながりが薄くなること、3)広告収入が減ること、がそれぞれ挙げられた。

また、電子化にあたっての付加価値についても説明された。具体的には、1)全文 HTML 形式での公開とすることで、パソコンやモバイル端末を問わず読みやすくなること、2)論文内の各セクションへのナビゲーションリンクが表示され、それぞれのセクションに素早くアクセスできること、3)本文内の各図表にリンクが貼られ、図表番号を

クリックするとその図表が表示されること、4)本文内の引用文献番号はマウスオーバーで文献情報が表示されること、5)引用文献番号をクリックすると文献欄の該当文献にアクセスできること、6)論文内に動画を埋め込むことができること、がそれぞれ説明された。

本件は、学会終了後1週間をめどに意見を徴収の上、引き続き、検討を続けることとなった。

7. 学会公式 Twitter 運用の件(田中[学]理事)

「日本小児耳鼻咽喉科学会・公式 Twitter 運用指針(案)」が提示された。具体的な内容として、1)学会誌や学術講演会等からの情報発信を有効的に補完するため、①学術講演会の開催告知や内容の紹介、②本学会ウェブサイトに掲載されたコンテンツやお知らせの紹介、③その他、理事会あるいはHP 広報委員会で適切とされた情報の発信、以上3点をそれぞれ行っていくこと、2)発信に際しては、①個人情報・プライバシー保護、発信する情報の正確性と公平性、発信する情報の著作権に配慮すること、②引用やリツイートの場合は必ず引用源を明らかにすること、③批判的な発言や他社の不利益を誘導するような発言は慎むこと、④インターネット上の恒久性を意識すること、⑤関連法令を遵守すること、以上5点を原則とすること、3)注意事項として、①Twitter では発信された情報が直接世間に広がり、情報の受け手を特定できないため、常にその影響(有効性と不利益)を意識して利用する必要があること、②本運用では双方向性コミュニケーションを目的としていないため、個人向けリプライ(返信、応答)は行わないこと、以上2点について、それぞれ説明された。

本件について審議され、承認された。

8. 小児滲出性中耳炎ガイドラインリーフレットの件(小林理事)

「小児滲出性中耳炎ガイドライン」が2022年秋に改訂されるが、これに伴い作成されるリーフレットを学会として買い上げ、会員に配布をすることについて審議され、承認された。

9. 小児アレルギー性鼻炎実態調査の件(吉原理事)

小児アレルギー性鼻炎実態調査を、日本小児アレルギー学会と共同で行うことについて審議され、承認された。

10. イクボス宣言の件(吉川理事)

小児科医ならびに耳鼻咽喉科医による小児医療の発展のため、離職を防ぎ、部下のQOLが向上するように組織改革するには、イクボス(=職場で共に働く部下の仕事と家庭の両立[ワーク・ライフ・バランス]を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織としても結果を出しつつ、自らの仕事と私生活を楽しむことができる上司)が必要と考え、すべての管理職に働きかける宣言である「イクボス宣言」の案が提示された。

本件は、引き続き、内容や宣言形式につき、検討を続けることとなった。

11. 小児科領域企画推進事業における小児 OSA に対する扁桃摘出術に関するガイドラインまたは手引き作成の件(原理事)

小児 OSA に対する扁桃摘出術に関するガイドラインまたは手引きの作成を進めることにつき審議され、承認された。

12. 専門医制度の方向性の件(田中[康]理事)

小児気道管理の専門医や相談医のニーズを調査すべく、会員向けにアンケートを行うことにつき審議され、承認された。

13. 鈴鹿基金(ペガサス基金)を用いた若手医師の研究助成案の件(齋藤理事)

「鈴鹿基金(ペガサス基金)を用いた若手医師の研究助成案」が提示された。具体的には、「研究助成」「海外学会派遣(口演)助成」「論文賞」「海外留学助成」の4種類の助成案が提示され、いずれも申請時に原則35歳以下の本学会員を対象とするが、ライフイベントなどの事情のある研究者に対して柔軟に対応していくものであることが説明された。

本件は、引き続き、委員会内で検討を進め理事会に諮ることになった。

14. 選挙管理委員会発足の件(伊藤理事長)

来年(2023年)は役員(理事・監事)選挙が開催されるため、選挙管理委員会の発足の必要があるとして、その旨、審議され、承認された。

15. 第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長推薦(伊藤理事長)

第20回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長に川崎医科大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の原浩貴教授が推薦され、承認された。

以上

理事長:伊藤真人
庶務担当:守本倫子
庶務副担当:仲野敦子
幹事:有本友季子
小森 学
橋本亜矢子
(文責)香山智佳子